

	香川大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:150） 大学院農学研究科（M:60）
沿革	明治36（1903）年 木田郡立乙種農学校創立 昭和24（1949）年 新制香川大学設置 昭和25（1950）年 香川県立農科大学設置 昭和30（1955）年 香川県立農科大学を国立移管し、香川大学農学部設置 昭和43（1968）年 大学院農学研究科修士課程設置
設置目的等	<p>香川大学農学部・農学研究科の母体である木田郡立乙種農学校は、香川県内の農業教育振興と人材育成を目的として明治36年に設置された。その後、香川県立農林学校、香川県立木田農業学校、香川県立農業専門学校を経て昭和25年には香川県立農科大学となったが、昭和30年に国立移管し、香川大学農学部へ承継された。</p> <p>昭和43年に、学部における一般的ならびに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って清深な学識を修め、専門分野における理論と応用能力を有する人材の養成を目的に農学研究科（修士課程）が設置された。</p> <p>昭和60年に、専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的として愛媛大学大学院連合農学研究科（博士課程）が設置され、構成大学として参加している。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>香川大学は、瀬戸内の温暖な気候風土と多様な地域資源を活用し、安全な食料の安定供給、豊かな里・海・山の環境保全、次世代の暮らしを支える生物資源と機能の開発等、命の基盤となる農学を探究し、地域と社会の発展に寄与するため、教育、研究、社会貢献、国際交流に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 豊かな人間性と高い倫理性のうえにグローバル化した現代社会に対応した国際感覚を養い、食料、生命、環境に関する科学的理解を深め、生物科学を基礎に生物資源の生産と利用に関する専門的知識と技術、課題解決能力を有し、広く社会に貢献できる高度な専門人材育成の役割を果たす。</p>

- 園芸・食品・希少糖など生物関連産業との関わりを重視した特色ある教育を進めてきた実績を生かし、様々な課題解決に向けてリーダーシップを発揮できるとともに、アジア地域の食の安全・環境保全・地域振興などを視点に展開している多様な国際教育プログラムの実績を生かし、グローバルにも活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 希少糖の開発利用など世界に先駆けた独創的な研究や実用植物のゲノム・遺伝子源解析研究、瀬戸内地域の農林水産資源の開発や利用と環境保全に関する研究などの実績を生かし、農学の諸分野及び他分野との学際領域における応用的な研究開発を推進し、地域社会の発展や我が国の農学の発展に寄与する。
- 香川県をはじめとする関係自治体の農業政策審議会等への参画、香川県との共同による酒米やワイン用ブドウ及びキウイフルーツ等の優良品種の開発と普及、かがわ機能性食品等開発研究会やかがわアグリイノベーションズ等への支援活動により地域社会に貢献してきた実績を生かし、香川県をはじめとする瀬戸内地域の農水産業、食品産業の振興に寄与する。
- 農学分野の各種研究センター、香川園芸研究協議会、希少糖・機能性食品研究会等の研究交流会や研修会及び県内各地で行う一般市民向けセミナーなどの実績を生かし、社会人の学び直しを積極的に支援し、地域社会と産業の発展に資する。
- 希少糖甲子園や干潟観察等による小中高生への理科教育への貢献実績を生かし、次世代の科学技術者・研究者の育成を支援するとともに、地域農業や産業の活性化、健康づくりなど学生が主体的に取り組む地域社会活動を支援する。